

第7回 港湾における i-Construction 推進委員会 議 事 概 要

日 時：令和5年11月20日（月） 15：00～17：00

場 所：（一財）港湾空港総合技術センター 2階会議室 および Web 会議

1. 主な議事

- 事務局より、本年度の委員会での取り組み内容等について説明をした後、委員による意見交換を行った。

2. 主な意見

- マルチビームクラウド処理システムについては、施工管理の効率化に寄与すると期待されるが、機器の費用面や維持管理面（機器のメンテナンス）、今後利用者がどのようにシステムを利用していくかという運用面を含めた引き続きの検討が必要。
- 施工履歴による出来形管理の検討については、マウンドなど外形的なものに限らず、石の噛み合わせや締固め状況など、潜水士による確認が必要な部分をどのようにしていくのか考慮する必要がある。
- ICT 施工の効率化に向けた出来形計測の手法については、今後の検討スケジュールを示して、課題の解決や要領の策定に向けて取組んでいくことが必要。
- 中小企業への ICT の導入や活用拡大については、これから導入を進める企業の参考になるので活用事例を示してほしい。
- 工事の自動・自律化を進めるには BIM/CIM クラウドの 3 次元データが必要。また、書類作成の負担が大きいという受注者の意見もあり、BIM/CIM クラウドへデータ保存を行い、他の工事関係書類と共有できるなど、効率化に繋がる観点での検討が必要。
- BIM/CIM 原則適用において、義務項目は「閲覧」による対応としているが、効率化を考えると「閲覧」だけでは不十分と考えられる。各段階で情報を更新していくことが重要。3 次元データを用いた発注を見据えるとともに、データ活用の効果も考えていく必要がある。
- 維持管理への ICT・BIM/CIM の活用に関連して、施設の整備主体と管理主体が異なることもあり、活用がイメージされにくいため、既に取り組みされている事例を参考にすることも有効。また、同様に災害対応への利用という観点も必要。
- 講習会は、後日でも閲覧できるよう動画をアップすることや、説明資料のページに合わせて音声を入れるなど工夫があると良い。
- 監督・検査については、効率化を目指し将来的には新技術導入にあわせて、現状の出来形管理要領等の各種基準類を抜本的に変えていくという観点も必要。

以 上